

第93回で「見出しは究極の要約」と書きました。しかしニュースによっては、新聞社ごとに、見出しに微妙な違いを見せることがあります。

2014年12月の二つの記事について見出しの違いについて考えてみます。

12月4日、朝日新聞朝刊の1面に「はやぶさ2 宇宙へ」という見出しが、縦長の大きな写真とともにありました。同日の毎日新聞もまったく同じ見出しでした。読売新聞は「はやぶさ2 軌道投入」で、3紙とも客観的事実を見出しにしています。

しかし、衆議院の解散に伴う選挙の開票結果を載せた12月15日、在京6紙の朝刊1面トップの見出しは、次のようなものでした。

「自公3分の2超 圧勝」「自公圧勝325議席」「自公大勝 3分の2維持」「自公勝利3分の2維持」「自公3分の2維持」「自民横ばい 291議席」。どの見出しがどの新聞のものでしょうか。

475議席のうち、自民は過半数を大きく上回る290議席を獲得（追加公認1人は含まず）、公明と合わせると325議席と、全体の3分の2以上を占めました。ただし自民だけだと選挙前から3議席減りました。この事実をどう捉え、どう表現するかが、新聞によって違ったのです。

圧勝・大勝・勝利・維持・横ばいには、捉え方の違いが入っています。勝ち方では、圧勝>大勝>勝利、という順になるでしょう。「維持」は「物事をそのままの状態でもち続けること」、「横ばい」は「物価・相場などが、変動のない状態で推移すること」（どちらも広辞苑）で、似た意味にとれます。しかし、「維持」には、守るというニュアンスがありますが、横ばいは、伸び悩むという意味にも捉えられ、思ったほどは伸びなかった、ということでしょうか。

子どもたちに、自分ならどんな見出しを付けるか考えさせてもよいでしょう。事実を間違えてさえいなければ、どう付けても正解ですし、新聞を使った授業では、自分の考えを発表することに重きをおくとよいでしょう。

＝新聞はいずれも東京で発行された朝刊紙面から  
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)